

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

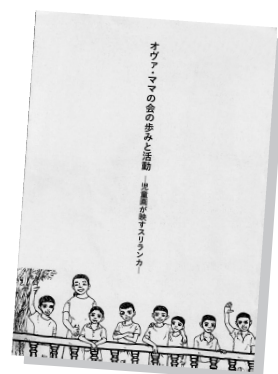
- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。
これを世界にたとえ、さまざまな果実（人々）の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



上:オヴァ・ママの会
スリランカの児童画の展示会と、
解散を機に発行した小冊子

右:ニカラグアの会
解散記念イベント会場にて



特集

支援の軌跡を未来へ

～ ニカラグアの会 と オヴァ・ママの会 が残したもの ～

今年、ニカラグアの会とオヴァ・ママの会という、この地域で長年活動が続けてきた団体が解散します。お話を伺ったお二人とも名古屋NGOセンターの運営にも積極的に取り組まれ、ニカラグアの会の伊藤さんは2011年から現在まで理事を、オヴァ・ママの会の赤羽さんは2000年の法人移行時に理事を、さらに2007～2017年に理事や監事をされました。

支援の軌跡を未来へ ～ ニカラグアの会とオヴァ・ママの会が残したもの ～

ニカラグアの会 事務局長 伊藤 ^{ゆき よし} 幸慶さん

簡単に活動紹介をお願いします

ニカラグアは中米にある人口600万人ほどの小さな国です。1979年に革命が成立して以降10年にわたって内戦が続き、国土も人も疲弊してしまいました。その後も経済的に厳しい状況が続いて中南米では最も貧しい国の一つとなっています。

1985年に大学生が「名古屋ニカラグアに医療品を送る会」を設立して以降、1990年代にステファニさん（名古屋NGOセンターの初代代表）の影響で支援者が増えて会が大きくなりました。



現地にある伊藤さんの似顔絵
背景にソーラーパネルが写っています

夜間成人女性学校への支援や小規模なソーラーパネルによるエネルギー自給事業をしています。ひとつの小学校区という小さい規模ですが、その方たちの生活を支援しつつ、日本にニカラグアを紹介することができて、やって良かったと思っています。

日本での活動も力を入れていましたね

講演会、映画会、ラテン音楽のライブもやりました。素朴画カレンダーも好評でした。1991年から2026年まで36年間作りましたが、多い年は1,500部、最後の年も380部販売しました。さんぐりあの読者の方も購入された方は多いと思います。ご支援ありがとうございました。

解散するきっかけは

設立から30年以上たってスタッフや支援者が高齢になり、なかなか新しい人が入ってこないなか、そろそろ解散して刷新したほうがいいのかとスタッフが同じ気持ちになったのが理由です。ニカラグアの政治状況が悪化（独裁化）したことも大きな原因です。

また、以前は日本からニカラグアを支援するNGOはほ

とんどなかったのですが、最近、青年海外協力隊でニカラグアで活動していた方が、日本に帰国して女子野球の支援などを始めています。私たちはそちらの若い団体をサポートすることにしました。

1990年代はどのように運営していたのですか

昔は現地と連絡は取りにくかったですね。そのため現地に行ってから直接決めることが多かったです。それが今ではwebで会議ができるようになり、当時、頻繁に行っていた映画上映会や素朴画展示会も、会場を借りたりせず、youtubeにでもアップすれば、都合がいい時に見ることができるよう環境になってしまいました。音楽も同じく、ライブをやりにくくなっています。ただそうはいつても、開けば直接顔を合わせることで得られるものもありますし、寄付を募ったりカレンダーを販売することもできますので、回数を減らし小規模で続けてきました。また1990年代は今より助成金を取りやすかったように思います。当時は円高で飛行機代も今ほど高くありませんでした。



作者 & 通訳の方とともに！寄贈された絵の鑑賞（ソーラーパネル製作会場にて）

これから活躍されるNGOスタッフの皆さんにメッセージをお願いします

現在は、情報はリアルタイムに入ってくる時代です。そのため情報を提供するだけではだめで、情報プラス何かを共有できるものがあるといいと思います。例えば支援先の人と交流できるとか。それがNGOの魅力になると思います。私もニカラグアの会以外の何らかの形で、これからもこの地域のNGOにかかわっていきたいと思います。

あか はね
オヴァ・ママの会 事務局長 赤羽 一郎さん



どういった活動をされてきたのでしょうか

スリランカにて養護施設を建設してその運営に協力してきました。設立したのは1992年です。当時のスリランカは、内戦で国家財政の25%が軍事費で、社会福祉や生活支援に充てる余裕がなく、約1割にあたる40万人の子どもが家と家族を失ったホームレスの状態でした。そのため、名古屋の女性2人が愛知学院大学のスリランカ留学生に相談して、オヴァ・ママの会を立ち上げました。オヴァは「あなた」、ママは「私」という意味で、対等な関係を作るという思いで名付けました。

ボランティア貯金を活用して1994年に児童養護施設を建設し、延べ約200人の児童がそこで暮らして巣立ちました。その間2015年まで日本で里親会員を募り、その寄付金を送って支援しました。里親は最大70人程度いました。

長く続いた秘訣などあれば教えてください

長く続けたいとは思っていませんでした。結果的に長く続いたわけですが、何といっても里親や支援者など日本で協力していただいた方々のおかげです。また、名古屋NGOセンターやアルシュ(自立を支援する会)、ハイチの会、ニカラグアの会、東ティモール子ども募金、日本バンガラデシュ友好協力会など、この地域のNGOの皆さんと一緒にやってきたのも大きな励みになりました。

スタディツアーは毎回5～10名、年1～2回行ってその成果を会報で報告しました。また毎年スリランカの子どもに絵を描いてもらい、青焰美術研究所の協力をえて名古屋市博物館で展示を行いました。そのようにスリランカ

の子どもたちの置かれた状況を伝えたことも、皆さんに長く支援していただいたことにつながったと思います。

子どもの絵の展示は私も見ました。写真よりも強く訴えかけるものがありますね。

そして、いよいよ会をたたむことになるのですね

養護施設に入る子どもが減ってきたのが理由です。2009年の内戦終結後、様々な問題を抱えつつもスリランカが経済的向上を取り戻しつつあり、戦争や貧困でホームレスになる子どもが減少し、現在は、両親の離婚や家庭内暴力(DV)を受けた子どもが中心になっております。スリランカが内戦で一番大変だった年代にスリランカが抱えてきた課題に対して多少なりとも貢献できたことが、店じまいした理由のひとつです。また、カウンターパートとの意思疎通が難しくなったのも、敢えて原因としてあげなければなりません。毎年100万円くらいあった日本からの寄付金が、里親の家庭的・経済的変化もあって30万円に減ったため、支援を取りやめざるを得ないと提案したところ、「会の代表があなたではだめだ。別の人に代表になってもらい支援を続けてほしい」と思わぬ答えが返ってきました。「子どもたちのために……」と頑張ってきた心が萎えた一瞬でした。

話しにくい内容をお話いただきありがとうございます。他のNGOの皆さんの参考になるかと思います。今と昔とでNGOのスタイルに違いはありますか

私たちはアナログ一辺倒で、ホームページはおろかメールマガジンも発行していませんでした。専従職員もおらず、全てボランティアで助成金の申請書や報告書を作成してきました。会員間でもほとんど郵便物で情報を提供したり頂いたりしましたが、特段不都合は感じませんでした。会報は毎号4～6ページを59号まで紙ベースで発行しました。紙ベースでやりとりしてたまに直接会ったりするのは、現在のインターネットよりかえって濃密だったような気がします。

会を閉じるにあたり「オヴァ・ママの会の歩みと活動～児童画が写すスリランカ」という48ページの小冊子(表紙写真右上)を発行して、支援者の方に配布したということです。そういう細やかさも長く続いた秘訣だと思います。

(担当:丹羽)



養護施設の卒業生の方たちと(2016年)
中央が赤羽さん

ニカラグアの会の特徴的な活動 ～ソーラーパネル～

ニカラグアの北部は山岳地帯で電線が引きづらく、未だに電気が通っていない地域が多い。また電気が通っている地域でも、電気は隣国から輸入していることもあり高価で、停電も多いのが現状だった。そんな折に、2008年頃にアルシュが行った手作りソーラーパネルの講習会に参加し、自分たちでソーラーパネルを作って取り付ければ、電気の自給自足ができるのではないかと、ソーラーパネルへの可能性を感じたのだった。

まず、現地の団体「スペレモス」が運営している学校にソーラーパネルを取り付けた。ソーラーパネルによって街灯、蛍光灯、ラジオを使うことができるようになった。蓄電すればテレビの観賞にも使用できる。ただし、ニカラグアの人にとっては、パネルもバッテリーも高価だった。バッテリー交換時にお金が続かず、太陽光発電そのものを辞めてしまうというケースも散見された。

当初の計画では、ソーラーパネルの設置や普及だけでなく、パネル作成やメンテナンスの技術者を育成し、支援地の電化と雇用の創出の一助になればと思っていたが、なかなか思うようにいかなかった。世界的な再生可能エネルギーの普及

により、市販のソーラーパネルの価格が下がって、手作りするメリットはかなり小さくなり、パネル作成技術を仕事にするのが困難になったという事情もある。

エネルギー問題は、経済発展や生活の質向上のために考えなければならない問題であり、太陽光・太陽熱や風力など様々なリソースが注目されている。小規模でも始められる手作りソーラーパネルも含め、多くのNGOに取り組んでほしい課題だと考えている。(2017年当時の状況) (伊藤幸慶)



現地でソーラーパネル作成

オヴァ・ママの会の特徴的な活動 ～アートセラピー～

養護施設の子どもたちの出身は内戦が激しかった北部と貧困が深刻だった南部に分かれるが、いずれの子どもたちも一様に表情が暗く、栄養不足で痩せている子どもが多かった。総じて、子どもたちは▶健康に恵まれない▶社会性に乏しい▶学力が低いという三つのハンディキャップを抱えていた。また、想像を絶する苦難を経験した彼らは、心に深い傷を負っていた。そのような経験が盗みや暴力となって表れることも少なくなかった。

オヴァ・ママの会では、子どもたちに絵を描いてもらい、それらをアートセラピーの専門家に心理分析をしてもらい、ケアの一助とするとともに、多くの人々に観ていただくために、展示の機会を設けてきた。当初は兵士や爆弾など戦争を想起させる生々しい絵や、黒や紫ばかりで色遣いの少ない絵を描く子どももいたが、施設に入ると次第に安堵の気持ちからか、色彩が明るさ、線はゆったりとしたものに変わっていった。

一方、心理分析の専門家青焰美術研究所主宰米山郁生氏によると、施設での生活が長くなると、その状況に甘んじようと絵に媚びが出てくる。明るい、きれいな色彩だが、絵から伝わってくる感動、生命力が感じられない。施設での生活が当たり前になるころから、子どもたちの精神の怠慢が始まる、と分析している。

子どもたちが描く絵は、本人の「自画像」であり、心の解放につながると考えてきた。そうした子どもたちの心の変化に留意しつつ、さまざまな方策を立ててきた。しかし、心の深奥に及ぶ援助は必ずしも一筋縄ではいかないものであった。

(赤羽一郎)



『風あげ』

風あげを楽しんだ兄弟の顔は黒く塗りつぶされている。V形の草の執拗なまでの表現に、忘れようとして忘れられない心奥のこだわりが感じられる

(担当: 貝谷)

「の国と、一生つながっていく人生にしよう。」
 そう決めたのは、青年海外協力隊から帰国して1年後の春でした。日本で慌ただしい毎日を送る中、少しずつ薄れていく中米グアテマラとの縁に恋しさを感じ、小さなことでもいいから繋がり続けられる活動を始めようと決意したのです。

その一歩から始まった活動は、4年経った今、想像以上の広がりを見せました。経済的に困難な家庭を対象とした奨学金事業は6期目を迎え、累計100名を超える日本人ボランティアによるオンライン英語プログラム、グアテマラと日本の両国の子どもたちの国際交流、そして現地学習塾の運営へと発展し、教育の機会が乏しいグアテマラの子どもたちに対して、豊かな学びの場を提供してきました。

今日にいたる道のりを振り返ると、「もともと、ここまで多くの活動をするつもりじゃなかったんだけどな。」と不思議な気持ちになります。ただただ目の前の子どもたちと向き合い、自分にできることを一つずつ重ねてきた結果、多くの方々に支えられ、両国を結ぶ活動へと育っていきました。

エッセイ NGOの 散歩道 第44回

想像とは違う今、
 出会うから生まれる新しい未来

最近では新たな夢も生まれています。高校生になった初期の奨学生たちが、身につけた英語を生かして日本人へ語学サービス*を提供する仕組みをつくることです。これが実現できれば、彼らが自らの力で大学進学を目指せるようになります。

活動当初には想像もしなかった新しい未来が、目の前の一人ひとりとの出会いから紡がれ、描かれようとしています。これからも子どもたちと真摯に向き合いながら、日本とグアテマラ、双方にとって実りある「幸縁」を育み、今日も私にできることを、愛を込めて積み重ねていきたいと思います！

*語学サービス：当団体の英語プログラムで培った英語力を生かし、グアテマラの若者が海外の学習者へオンラインでスペイン語を教えるプラットフォームの構築を検討中。若者が学費を自ら稼ぎながら学業を続けられる、新たな雇用創出事業を目指しています。



ホームページ：
 幸縁 <https://www.shien100.org/>

NPO法人幸縁 代表理事
 近藤 咲

さんぐりあ編集委員がおすすめるモノ・ヒト・メディア情報

NANGOC RECOMMENDS

なんごく

りこめんず

vol.82



『ブータン 山の教室』

中島正人の
 オススメ

2019年制作のこのブータン映画、今はなき名演小劇場で観て、ブータンの伝統文化と現代化の相剋を、主人公の青年・ウゲンに託して見事に映画にした、ブータン人パオ・チョニン・ドルジ監督に感服、はるかブータンの地の世界に魅せられた。

首都ティンブーから8日間もかけて辿り着く、標高4800メートルの地にある、ルナナ村の小さな教室。「先生は未来に触れることができる」、村の子どもたちの表情、声、ゾンカ語の「あいうえお…」、そして山々に響くブータン民謡の歌声。教室の主演の少女ベム・ザム(当時9歳)はじめ、実際の村人たちが多数出演していることにも驚く。村の人口は50人余りという。

2026年、伏見ミリオン座のスクリーンで、日本ブータン外交関係樹立40周年事業として、再びあのクラス委員の少女ベム・ザムの笑顔に会うことができた。現在16歳になったはずの彼女、いまはどうしているだろうか。



(2019年 ブータン映画 ゾンカ語・英語)
 DVD 3,900円(税別)



世界でくらすクルドの人たち

貝谷京子の
 オススメ

日本の在留資格が大きく変わろうとしている今、日本で暮らす外国の人たちの生活や生き方も大きな転換点となっている。そんな中で、クローズアップされるのが、クルド人。クルド人は「国を持たない最大の民族」と言われていて、日本で暮らすクルド人の多くは埼玉県に住んでいる。私たちは、ニュースやSNSや噂話でクルドの人たちのことを見たり聞いたりするけれど、本当のところ、どんな人たちなのかわかっていないだろうか。

この本は、日本で暮らすクルドの人たちだけではなく、世界中で暮らすクルドの人たちのことを描いている。日本で暮らすクルド人のネウロズという春のお祭りからスタートし、イラン、イラク、カナダ、オーストラリア、イギリス、ドイツで暮らすクルド人たちの生き様が金井真紀さんの可愛い絵と共に紹介されている。

いろんな国で暮らす「春をよるこぶ みんなで踊る」クルドの人たちを垣間見ること、人はどんな人も一括りにはできないということが見えてくる。

ちなみに金井真紀は『日本に住んで世界のひと』、『戦争とパスタール』(安田浩一との共著)、『それは私が外国人だから? 日本の入管で起こっていること』(安田菜津紀との共著)などもあり、それらも超おすすめ。

『日本に住んで世界のひと』大和書房 2022年



金井真紀 文・絵
 月刊たぐさんのふしぎ 2026年3月号
 福音館書店 810円(税込)

Nたまのいま

No.54



かこ
Nたま22期生 三浦果子さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てるコミュニティカレッジ”(通称Nたま)。2002～2025年度までの22回で(2004、2020年度はお休み)、研修を受けた方は305名。

約半年の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？

第54回はNたま22期生、大学に在籍されながらNGOインターンや海外ボランティアなど、活躍の場を広げている三浦果子さんにお話を伺いました。

「誰かの力になりたい、その思いを原動力に」

■国際協力に関心を持ったきっかけは何でしたか

2024年に国際協力カレッジへ参加したことです。そこで「イカオ・アコ」(フィリピンで植林やエコツーリズムを通じた環境保全を行うNGO)の木村さん・二角さんに出会いました。お二人の人物や活動への思いに触れ、「私も一緒に活動したい」と、その場で広報のボランティアに名乗りを上げました。ここまで何かに突き動かされるように行動をしたことがなかったので、自分でも驚きました。振り返れば、昔から英語が好きだったことや、大学で平和学の授業を受けていたことなど、漠然と積み上げてきたものが1つにつながるのが国際協力だったのだと思います。

■広報ボランティアではどんなことをされましたか

主にInstagramなどのSNS発信を担当しています。PR記事の作成や画像編集など、初めは慣れない作業ばかりでしたが、新しい挑戦はとても楽しかったです。広報として携わり、「イカオ・アコ」のこれまでの歩み、目指していく姿、活動を支える多くの方々への理解が深まりました。また広報はNGOの活動を知っていただき、支援の輪を広げるための大切な役割を担っています。だからこそ、魅力や意義をどう伝えれば関心を持っていただけなのか、そのアプローチの難しさも学びました。ボランティアを通して、NGOの仕事にもっと深く関わりたいという気持ちが強くなりました。

■その後2025年度のNたまに参加されましたか

大学3年になり就職活動が始まる中で、今一度“自分の価値観”や“今後の人生”を見つめ直したいと思い、1年間の休学を決めました。そのとき挑戦したいことの候補として浮かんでいたの

がNたまでした。半年という期間や、かなり実践的な研修内容だったこともあり、自分が参加して良いのか迷いもあったのですが、「何事もやってみないと分からない」と思い参加を決めました。「イカオ・アコ」の二角さんがNたまサポーターだったことも背中を押してくれました。

■Nたまに参加して良かったことを教えてください

年齢や職業など、異なるバックグラウンドの方と活動を共にし、多様な考え方に刺激を受けました。また研修の中では、津島市にてイスラム教徒の方々に関わる機会があり、日本で暮らす海外にルーツを持つ方々と地域コミュニティとのつながりを築く難しさ、そしてそのための相互理解の大切さを実感しました。またNGOで活動をする上で、表面的な困り事だけでなくその背景や構造を理解し、本質的な課題を知ることが重要であると学びました。Nたまで様々なNGO団体・同じ志を持つ仲間など、多くの出会いがあったからこそ、国際協力の現場で生かせる知識・経験を積むことができました。さらに、価値観や興味・関心の幅が大きく広がったことなど、自分自身に大きな影響を与えてくれたこともあり、研修を受けて本当に良かったと思っています。

■Nたま修了後の活動について教えてください

今年の3月から約1か月半、「イカオ・アコ」のインターンとしてフィリピンのネグロス島で過ごしました。マングローブの植林や、台風で被害を受けた地域に支援物資を届けたり、日本から訪れたボランティアの方を案内したりなど、スタッフの一員として活動を行いました。印象的だったのは、現地の方々が楽しそうに植林活動をしていたり、マングローブ林が地域の憩いの場となっていた

ことです。Nたま研修で、“現地の方が主体性をもって活動できることが理想”と学んだのですが、長年築いてきた信頼関係によって、取組みが“現地の方のもの”として根付いていることを実感できました。インターン後はネパールやインドネシアで、子どもたちへの英語・日本語教育や、オーガニック農家で農業ボランティアなどを経験しました。様々な国の方々と出会い、文化や価値観に触れることで、より視野が広がりました。

■今後のビジョン・挑戦したいことはありますか

“世界って平等じゃない”そう感じる瞬間が、これまで何度もありました。生まれた国や地域、貧困や教育機会の不足など、自分ではどうすることもできない理由によって可能性を狭められてしまう人たちがいます。私はこれからもその現実を忘れず、そうした社会課題の解決に少しでも貢献できる人になりたいと考えています。またNGOの現場で、人手不足やファンドレイジングなど、多くの苦労を目の当たりにしてきました。今は自分にできることの可能性を探っている段階ではありますが、将来はこうしたNGOの課題解決に携われるような仕事や、これまでの経験を生かせる仕事があれば挑戦してみたいです。



フィリピンでの植林活動

(担当:伊藤)

センターの動き

退職あいさつ 村山佳江

この夏、本当に久しぶりに一人旅に行ってきました。ずっと体験してみたかった船の旅。3泊4日のうち2泊は船中泊で2段ベッドタイプの相部屋を予約しました。そこで偶然一緒になったのは、なんと70～80代の仲の良い4人組の皆さん。関西弁の元気で面白い会話に混ぜてもらい、思いがけず楽しく心に残る旅になりました。

人生の半分以上の時間を過ごし、ともに成長しながら歩んできた名古屋NGOセンターは、私にとってとても愛着のある場所です。退職という決断は簡単ではありませんでしたが、思い切って次の一步を踏み出してみることにしました。先日の一人旅のように、これからの旅路にも、きっとまた素晴らしい出会いが待っていることを信じて。

長年にわたり、名古屋NGOセンターを通じて出会い、支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。大変お世話になりました。



多くの出会いに恵まれた
NGO研修の懇親会にて（手前右端が私）

新職員あいさつ 加古麻理江

10月より、新職員としてお世話になります。名古屋NGOセンターとは、15年ほど前にJICA中部で行わ



れた「国際協力カレッジ」に参加したことをきっかけに、様々な講座に参加させていただくと、事務局ボランティアとしても関わらせていただいております。村山さんが退職されると、とても寂しい気持ちですが、スタッフのみなさんがいつも優しく温かく迎え入れてくださったような、また訪れたいような場所を引き継げるよう精一杯努めてまいります。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

新加盟NGO紹介

このたび、名古屋NGOセンターに新たに2団体が加盟しました。各団体の活動内容をご紹介します。

かけこみ女性センターあいち

住所：※被害者保護の観点より事務所所在地については明記しておりません。

TEL:050-3045-9501

E-MAIL:kakekomi3@outlook.jp

ホームページ:https://kakekomi3.com/

対象国:日本 活動分野:人権

活動内容:

女性に対する暴力根絶をめざし、一時保護としてのシェルター運営、電話相談、同行支援などのDV被害者支援により、暴力から抜け出すための支援を行っています。

認定NPO法人

中部リサイクル運動市民の会

住所:名古屋市中区代官町39-18
日本陶磁器センタービル5階

TEL:052-982-9079

E-MAIL:staff@es-net.jp

ホームページ:https://es-net.jp/

対象国:日本 活動分野:循環型社会の創造

活動内容:

ひとりから、地域から。私たちは、すべての「いのち」が調和する持続可能な未来のために、地域に暮らすさまざまな立場の人々とともに、循環型社会の実現をめざしています。

活動報告カレンダー

2026年3月1日～2026年8月31日

●ネットワークング

・シーテック クリック募金2026(6～1月)スタート

●コンサルティング

・NGO相談(外務省NGO相談員):3～8月391件、第1回連絡会議(7/17)
・出張相談:①JICA新職員意見交換会及び交流会(6/11,愛知県)②NGO活動とキャリア形成講義(6/12,愛知県)③NGO活動とキャリア形成講義(6/18,愛知県)④日本ボリビア人協会設立30周年記念&フォーラム(8/8,三重県)

●情報収集・発信

・会報『さんぐりあ』5月号発行(1,000部)・発送(4/28)
・情報発信

ホームページ	センターからのお知らせ更新回数	13回
	中部NGO情報ひろば更新回数	41回
facebook	フォロワー数	1,474人
Instagram	フォロワー数	510人
メルマガ	登録数	239人

●政策提言

・NGO・JICA協議会 参加(3/4)
・NGO・外務省定期協議会 参加(6/12)、ODA政策協議会 参加(3/30,7/24)

●人材・活動育成

・東海地域NGO活動助成金 最終選考会・助成団体決定(3/7)

●事業助成(4団体)

(特活)セイブ・イラクチルドレン・名古屋	150,000円
一般社団法人 Bridges in Public Health	220,000円
かけこみ女性センターあいち	280,000円
認定NPO法人中部リサイクル運動市民の会	300,000円
●組織基盤強化助成(1団体)	
(特活)トルシーダ	300,000円

・あなたの挑戦をサポートするNGO研修2025

講座(3/18)、成果発表会(4/16)

・JICA新人研修 受け入れ & 若手交流会(6/11)

・NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ2026(Nたま)説明会(6/17,21,27,7/10)、個別相談会(6/24,29,7/11)、入学式(7/25)

●運営

・理事会(4/21,5/23,7/28)

・事務局会議(3/10,4/10,5/12,6/9,7/14,8/18)

●賛助会員

高木雅成、二角智美、大川元嗣、斉藤尚文、西口のぞみ、加茂省三、國部吉規、谷川毅、近藤公彦、今井田正一、市川隆之、谷口千賀子、山田隆円、松本恭一、加藤克也、篠田英次、平井英司、小田孝、中垣貴裕、中島隆宏、岡田雅宏、矢内淳、原田篤実、平野木恵、福田美津枝、桃井義博、川合千代子、水谷洋子、平尾秀夫、廣井修平、林滋、岩田崇、中野行俊、河野侑里、吉田英一、藤井典夫、高田信英、横山紀子

●正会員

タランガ・フレンドシップ・グループ、NIED・国際理解教育センター、南遊の会、ビニブラザーホッド・カイジャパン、(一財)日本国際飢餓対策機構、中部リサイクル運動市民の会、オイスカ中部日本研修センター、ムラのミライ、チェルノブイリ救援・中部、アムネスティ・インターナショナル日本なごや栄・わやグループ、アジア保健研修所(AHI)、平和のための戦争メモリアルセンター、ホープ・インターナショナル開発機構、ハート・フォー・ザ・ワールド・ジャパン、ル・スリール・ジャポン、アジア車いす交流センター、名古屋YWCA、イカオ・アコ、アークス仏教国際協力ネットワーク、ペシャワール会名古屋、地域国際活動研究センター(CDIC)、アイキャン、外国人ヘルプライン東海、キャンヘル・タイランド、なごや自由学校、不戦へのネットワーク、オリーブジャパン国際開発協力協会、ボラみみより情報局、かけこみ女性センターあいち

●寄付者

【一般寄付】

中島正人、藤本潔、二角智美、近田千波、村山佳江

【東海ろうきんNPO寄付システム】

伊藤武士、宇野菊夫、大野博人、後藤文昭、酒井俊輝、水野愛、山田志帆、松下和哉、中島正人、八木巖

【Nたまサポーター】

原田篤実、加藤里紗、塩田真也、大須賀恵子、春田みな美、栗田佳典、木村容子、中島正人、松浦史典、後藤純、羽佐田美千代、村田元夫、中野祐紀、林滋、岩田崇、松本恭一、尾崎寿光、谷川毅、斉藤尚文、坂部武志、中尾さゆり、藤井朋子、斉藤順子、遠山涼子、山本梨恵、裏見登志子、鉄井宣人、高木雅成、二角智美、中島隆宏、笠原聡太郎、河合良太、北村祐人、小池康弘、和田さとみ、筒井広治、佐藤元紀、貝谷京子、小森夏未、高野菜、大川元嗣、丹羽俊策、横井春香、森元裕恵、中垣貴裕、水谷洋子、渡辺祐樹、吉田弘生、高橋美和子、佐藤光、黒田朱里、青木研輔、熊澤友紀子、関口威人、池住義憲、工藤泰三、落合佑哉、田中典子、藤本潔、窪川佐紀、和田信明、鈴木二葉、松中みどり、和喜田恵介、青山岳史、浅野愛美、レザークラフトワールド株式会社、川島知司、福嶋聡子、櫻井裕子、中島正博、大屋正人、前倉英人、神谷周作、連合愛知、岡谷鋼機株式会社

【外貨】

ほーりー、大矢健治、名古屋YWCA

【アフィリエイト】

アマゾン・ヤフー224円

●協力者

【4/28発送作業ボランティア】

鷺見那葉香、中島マサ、増田いづみ、久保田そら、八木

写真展

いのちの声をきく

2026年10月28日(水)～2027年2月28日(日)

10:00～18:00 入場無料
JICA中部なごや地球ひろば



なごや
地球ひろば

入場
無料

アクセス | 名古屋駅から徒歩13分
休館日 | 月曜・年末年始
(祝日の場合は開館、翌平日が休館)

買物ゾーンがリニューアルオープンしました！



事務局のひとこと

9月8日、名古屋は記録的な大雨に見舞われました。電車もバスも止まり、立ち往生する人があちこちに。「日常はこんなにもろいのか」としみじみ。だからこそ、普段の小さなつながりが、いざという時の支えになる気がします。(近田)

編集後記

ずっと新人のつもりでいたけれど、気づいたら干支一周してました。敬老バスをもらえる年になり、そろそろさんぐりあを卒業しようと思うに至りました。京都まで取材に出かけたり、懐かしい人に出会ったり、興味深い時間でした。老後はお金の続く限りのんびり旅をして過ごそうと思います。まずはピースボートで世界一周。

(貝谷)

アジアのお祭り、AHI オープンハウスで提供される、名物料理が「スリランカカレー3種盛」！いつも大行列でした。私にとって、オヴァ・ママさんと言えば、カレー。スリランカに行ったこともあるので、私にとって興味のある団体さんでした。お話ししたところ、もう歳だからやらないと。ママの味、またお願いしたいです。(桜井)

オリーブの木製品

パレスチナで暮らす人々にとって神聖であり身近な存在という、オリーブの木！その木を器用に削りつくられた、鳩やロバ、らくだ柄のブローチは木目がさまざま、この世にたった一つ存在です！

★ 11月15日(日)～12月12日(土)

パレスチナの写真展@風's ★

オリーブの木製品を届けてくれる架け箸さんのお話会も同時開催
～詳細はSNSにて～



顔の見える店～FAIR TRADE 風's (ふ～ず)



〒462-0844 名古屋市北区清水5丁目10-8
グリーンフェロービル 3C (EV有)
営業日/月・木・金・土 12時～16時
Tel/070-9120-8820
Mail/huzu.fairtrade2@gmail.com



発行：特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
会報編集委員：市川隆之、中島正人、廣井修平、貝谷京子、桜井裕子、
丹羽輝明、内藤壽久、伊藤玲奈、村山佳江
レイアウト：桜井裕子、大川真依
発行日：2026年10月13日
印刷：山本印刷有限会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL & FAX: 052-228-8109 URL: <https://www.nangoc.org>
E-Mail (代表): info@nangoc.org

会費・寄付は以下よりお願いいたします。

①クレジットカード <https://nangoc.org/support/>

②郵便振替 (口座番号) 00860-5-90855 (口座名) 特定非営利活動法人名古屋NGOセンター